上宮田小　　R４年度　重点１

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	1	児童は教育目標に向かっているか
目標（評価規準）		・学校生活の中で、児童は「自立」し、向上心をもって「生きる力」を育む事ができる。 ・児童は、社会や他者に貢献することで、「自立」し、「生きる力」を育む事ができる。 ・児童は、楽しく学校生活を送ることができる。
重点に係る現状 設定理由		○本校教育目標「自立・貢献」の具現化を図るために、児童並びに教職員がその意義を捉えながら一定の成果が積み上げられてきた。児童が自立・貢献するために必要な学力の向上、人権意識の高揚をさらにはかっていく必要がある。また、感染対策を取りながらも自己と他者の関係づくりを意識した教育活動を積極的に行っていきたい。

評価資料	評　　価
教職員アンケート結果 （具体的方策ごと）	○「学校教育目標・学年目標等を日々の教育活動に生かしている」「職員のプロ意識のもと，教育活動がなされている。」「学校行事を工夫・改善がされている」という設問に対する回答が，１００％肯定的な回答であった。
各アンケート等の結果	＜保護者アンケート結果＞ ○保護者の児童の様子に対する評価，学校の児童への働きかけに対する評価について，概ね，良好な評価であった。「学校は，家庭との連絡や相談を充実させ，連携しようとしている」の設問に対して肯定的な回答は，８６．９％であった。他の設問は，すべて９０％を上回った。
自己評価結果 （見解と改善方策）	○感染状況を鑑みながら，これまで制限をかけていた話合い活動や校外学習，行事等を実施した。経験が少ないため，最初は戸惑ったり，スムーズにできなかったりすることもあったが，少しずつ慣れていき，児童は主体的に学習や活動に取り組むようになった。 ○「運動会」では，児童の係活動（応援や進行，審判等）を再開し，種目数も増やした。高学年が主体的に準備や当日の運営をするとともに，リーダーシップをとって，学年や全校で運動会を成功させようとする意識が見られた。全学年の児童，保護者がすべての種目を参観することができ，全力で取り組む姿や達成感を共有することができた。今後も，児童が自信をもって行動できるよう，自己肯定感を高めていくことを大切に教育活動を展開したい。そして，「自立」をさらに促したい。 ○児童会主催の「１年生を迎える会」は，体育館で発表する学年を入れ替えながらではあったが，１年生の前で発表をする機会をもつことができた。また，「６年生を送る会」は，本年度初めて，体育館で一斉に集う形で実施をした。異学年が交流したり，互いの発表を見合ったりすることで，「仲間意識」が醸成されたことがわかった。これからも，学校全体が一体となって「仲間意識」が醸成される中で，「貢献する心」を育てていきたい。 ○今後も，児童が主体的に活動できる行事や，互いの発表を見合う機会をつくっていきたい。
学校関係者評価結果	６年生を送る会を参観し，児童が他学年の発表をしっかり見ていたり，音楽に合わせて手拍子をしたり，互いが認め合っている様子が見られた。憧れをもったり，自分の成長を感じたりすることができるので，全校が一同に介して，行事を行うことの成果は大きいという意見をいただいた。
最終改善方策	自己評価結果（見解と改善方策）と同様。

上宮田小

R４年度　重点２

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	2	教職員は、児童の健やかな成長のために自らを高め、貢献することができたか。
目標（評価規準）		・児童一人ひとりが、安心して楽しく活動ができる学級・学年・学校を確立する。 ・明るく元気な挨拶や優しい言葉の掛け合い、自己肯定感を高め、他者を思いやることができる学級・学年・学校を確立する。
重点に係る現状 設定理由		○教職員が、まず、一人ひとりの児童をしっかりと理解し、実態を踏まえた上で授業や学級づくりを進めていくことは常に肝要である。そのためには児童の実態把握、児童指導、授業等、教職員としての資質・能力を高めていかなければならないと考える。また、児童の自己肯定感を高めるために、日々、教職員が人権感覚を磨き、すべての人の人権が尊重された学校づくりをしていきたい。

評価資料	評　　価
教職員アンケート結果 （具体的方策ごと）	○「上宮田小学校は，服務規律遵守，事故防止への意識が高い」という設問に対する回答が，全設問の中で最も高かった。自らを律しながら教育活動に向き合っていることがうかがえる。 ○「職員のプロ意識のもと，教育活動がなされている」「すべての人を尊重した，学校づくりをしている。」という設問に対する回答は評価結果が高かった。これは，職員一人ひとりが，意識を高くもって職務を行おうとしていることが推察できる。
各アンケート等の結果	＜保護者アンケート結果＞ ○「子どものことを理解しようとしている」についての肯定的な回答が９５％，「学校は，自立の礎となる基礎・基本を身につけさせようとして適切な指導をしている」についての肯定的な回答が９３％など，概ね良好な評価を得た。教職員の児童に対する働きかけが児童の成長に有効に働いていると解釈できる。
自己評価結果 （見解と改善方策）	○職員アンケート「上宮田小学校は，職員のプロ意識のもと，教育活動がなされている」という設問に対して，高い評価結果になっていることからも，職員が，自らを高めていこうという意識が高いことがわかる。 ○校長室だよりや研修を通して，学級づくりや児童指導の留意点等について，職員で共有したことで，職員の人権意識が高まったと感じている。 ○日々の教育活動を充実させるため，職員は真摯に子どもに向き合う姿が見られた。経験が豊かな職員は，自らが培ってきたことを伝える姿，経験が浅い職員は，経験が豊かな職員から学ぶ姿を多く見ることができた。 ○コロナ禍により，学校生活の制限があったが，可能な限り，充実した教育活動ができるよう，職員でアイディアを出し合い，積極的に取り組んでいた。また，子ども一人ひとりを尊重し，あたたかな学級づくりを心がけていた。 ○切磋琢磨しながら，自らの力を磨き，それをもとに協働して子どもに向き合う職場づくりに引き続き向かいたい。
学校関係者評価結果	感染対策をとりながら，職員が工夫して教育活動を行ったことが，児童の健やかな成長につながっていると評価していただいた。１学級の人数が多いので，工夫して，きめ細かな教育活動をしていく必要があるという意見をいただいた。
最終改善方策	自己評価結果（見解と改善方策）と同様。

上宮田小

R４年度　重点３

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	3	学校関係者との連携は深化したか
目標（評価規準）		・児童の向上心を高めるため、指導場面において外部協力者等の地域の教育力の活用を可能な範囲で図る。 ・児童の安全確保のために地域や保護者と連携した活動の充実を図る。
重点に係る現状 設定理由		○感染対策をとりながら、地域での体験学習や外部協力者の招聘などを積極的に行い、児童の知的好奇心や向上心を高めていきたい。 ○登下校を中心とした地域における児童の安心・安全の確保においても貢献していただいている「見守り隊」の方をはじめ、地域や関係機関との連携、相互の理解を深めていきたい。 ○児童が地域に対する愛着をもち、地域で生きる一員としての自覚を高めることができるようにしたい。

評価資料	評　　価
教職員アンケート結果 （具体的方策ごと）	○「上宮田小学校は，家庭・地域との連携がなされている。」という設問に対して，１００％肯定的な回答が得られた。今年度，授業参観や保護者会，学校へ行こう週間等を実施したり，ＰＴＡ活動を再開したりしたことで，保護者や地域の方との連携について成果があったことがうかがえる。
各アンケート等の結果	＜保護者アンケート結果＞ ○全項目にわたって，肯定的な回答が得られたということから，学校の指導の意図や方策が保護者にも伝わって協力を得られているととらえることができる。「学校は，行事や学校公開，通信等を通して，児童の様子や学校の方針がわかるようにしている。」の設問に対して，肯定的な回答は９６．１％であった。
自己評価結果 （見解と改善方策）	○授業参観や保護者会，学校へ行こう週間等を実施し，学期に１回以上は，保護者が授業や行事を参観できたことで，学校の教育活動を理解する機会が増えた。 ○３年ぶりにＰＴＡ活動を再開し，保護者どうし，保護者と教員が関わる機会が増えた。 ○登下校を見守ってくださっている「見守り隊」の方には，従来通りの活動を展開していただいた。児童の安全確保の観点から大変ありがたいこととととらえる。今年度は，見守り隊の方に来校していただき，児童に紹介し，直接，御礼を伝える機会を設けることができた。引き続き，連携を図って，児童の安全確保に努めていきたい。 ○海洋教育推進事業の予算を活用し，外部講師を招聘したり，地域へ体験学習に出かけたりする機会を多くもつことができた。海や地域のことを知り，親しみをもつ機会となった。 ○少しずつ再開はできたが，地域の方との連携する機会が少なかったので，次年度は，５０周年記念事業等を通じて，家庭と地域との連携を深めていきたい。
学校関係者評価結果	保護者会やＰＴＡ活動が再開したことで，学校の教育活動についての理解が深まり，学校と家庭との連携につながっていくという評価をいただいた。
最終改善方策	自己評価結果（見解と改善方策）と同様。